



目次

巻頭言 新たな附属図書館へ期待する	1
特集 電子ジャーナルアンケート	3
本との出会いを楽しむ<第12回>	7
図書館に関する話題<第12回>	8
他大学図書館紹介	9
Library News	10
本学教員等著作寄贈図書・資料一覧	11

## 新たな附属図書館へ期待する



附属図書館長 長谷川 成一

「最近、附属図書館内が少々うるさいのではありませんか。特に3階は!」と、附属図書館を利用された方から、館員を通じて私のもとに苦情が寄せられました(本年8月下旬に閉館する前で、通常に開館していた時期のこと)。本来であれば、直ちに館長名で「静粛にするように」との貼紙を館内に掲示するか、注意を喚起する全学一斉メールを発信するところです。しかし、私は敢えてそのような措置をとりませんでした。ご注意下さった方にはまことに申し訳なく思うのですが、内心、私たちが企図したことがある程度成就したのではないかという気持ちを持ったことも事実です。

一昨年、周知のように本館におけるアクティブラーニングの一環として、本館3階にラーニングスペースとラーニングスクエアを開設し、コンピュータ50台(以前は劣悪な環境下で30台しかなかった)を備えた情報サテライトを設置しました。その結果、情報サテライトのコンピュータ稼働率は90%を超えて全学ではダントツの利用となり、加えて本館全体の入館者数も前年度と比較して

10%ほど増加しました。ラーニングスペースとラーニングスクエアは、活発なディスカッションを通じてのグループ学習と研究成果の発表と討議など、双方向からの学習が可能になるように構想して設置しました。したがって、当該の施設が静まりかえっていても、3階の活性化という目的は果たせなかったこととなります。いささか不謹慎ではありますが、冒頭の苦情には困りつつも、ある程度の満足感をもって受け止めたのは、以上の事情があったからです。来年2月竣工を予定している新図書館においては、年々増加する蔵書量に対応できるように集密書架の増設、ラーニングコモンの増設やアメニティスペースの設置など、学習環境の整備と一層の充実を予定しています。

施設・設備などハードの面における充実とともに、よりいっそう大事なのは、ソフトの面とりわけ館員の意識の改革ではないかと思われまふ。かつてマスコミで、図書館の「貸本屋化」批判が喧伝され、ご記憶の方もおられるでしょう。さらにいえば、最新の設備を持つ図書館では図書の貸借

が自動化されて、館員の手を経なくともボタンを押せば希望の図書が直ちに手元に届くことから、最近では館員不要説まで飛び出してきています。もちろん、図書館業務は図書の貸借だけではありませんし、目録作成や図書情報の入力、電子ジャーナルの契約や運営など利用者には見えにくいですが、図書館を下支えしている業務は山積しています。

学生から寄せられた「図書館へのご意見」の中に、「職員が暇そうにしているが」などと館員を揶揄(やゆ)するような文言が見えるのは正直言って寂しい限りです。館員は連日、上記の業務を誠実かつ熱心にこなしており、私が館長に就任して6年間、「暇そうな」職員は一人として見かけたことはありません。学生諸君も大学の構成員としての自覚を持ち、館員の仕事を理解し建設的な意見を述べて欲しいものです。

来年(2014)3月、私は停(定)年を迎え、本学を去ることになります。館長として次の2つの希望を述べて新図書館への期待とします。

第一は、「貸本屋化」批判からの脱却を図るためにも、今後、貸出型図書館から大学図書館本来の使命である知的創造空間への進化をはかることが肝要です。加えて、館員が能動的に学術資料の相談やレファレンスを担当し、必要に応じて教職

員・学生へ各種資料や情報を提供することが、図書館サービスの大きな要になると予想されます。館員には、利用者と図書やネットワーク情報を積極的に結びつける努力が求められることから、利用者の相談にも広く対応できる力量を蓄えてもらいたいと考えます。

第二は、本館の持っている図書・資料資源の保存と有効な活用です。貴重資料保管室に保管されている官立弘前高等学校資料は、皆さんご承知のように本年9月21日の朝日新聞全国版に紹介され、太宰治自筆ノートは、本年6月18日の日本経済新聞文化欄でも取り上げられました。このように本学所蔵の図書館資源は全国的に見ても貴重な価値を有することが立証されており、これらを活用することで本学から全国的な発信が可能になりました。また、自校教育などへの活用に当たっては、資料館や学内各部局・施設と連携して進めてほしいものです。

私が館長に就任して数年が経過したころ、複数の教員から「附属図書館は変わりましたね」、と言われました。嬉しい言葉でした。新図書館の開館によってハード・ソフト両面で大きな変化が巻き起こり、新館長に「附属図書館はさらに大きく変わりましたね」、との言葉が贈られることを期待しています。

(はせがわ せいいち)